

りんご栽培技術情報

～中生種以降の収穫前後の管理～

満開日起算による中生種以降の収穫期は、平年より進んでいます

- ★「ジョナゴールド」は9月下旬から10月上旬にかけて収穫適期を迎える見込みです。適期収穫に努めましょう！
- ★「ふじ」の着色管理適期です。作業が遅れないよう計画的に実施しましょう！

1 気象経過と3か月予報

6月以降の気温は、6月初旬並びに中旬、7月上旬から第5半旬、8月中旬から下旬にかけて、概ね平年より高く推移しました（図1）。また、7月下旬から梅雨明けの8月初旬にかけて降雨が続き、8月末から9月中旬にかけても断続的に雨が降りました。

仙台管区气象台が発表した東北地方の3か月予報（10～12月）では、気温が平年より高く、降水量は平年より多い予想です（図2）。

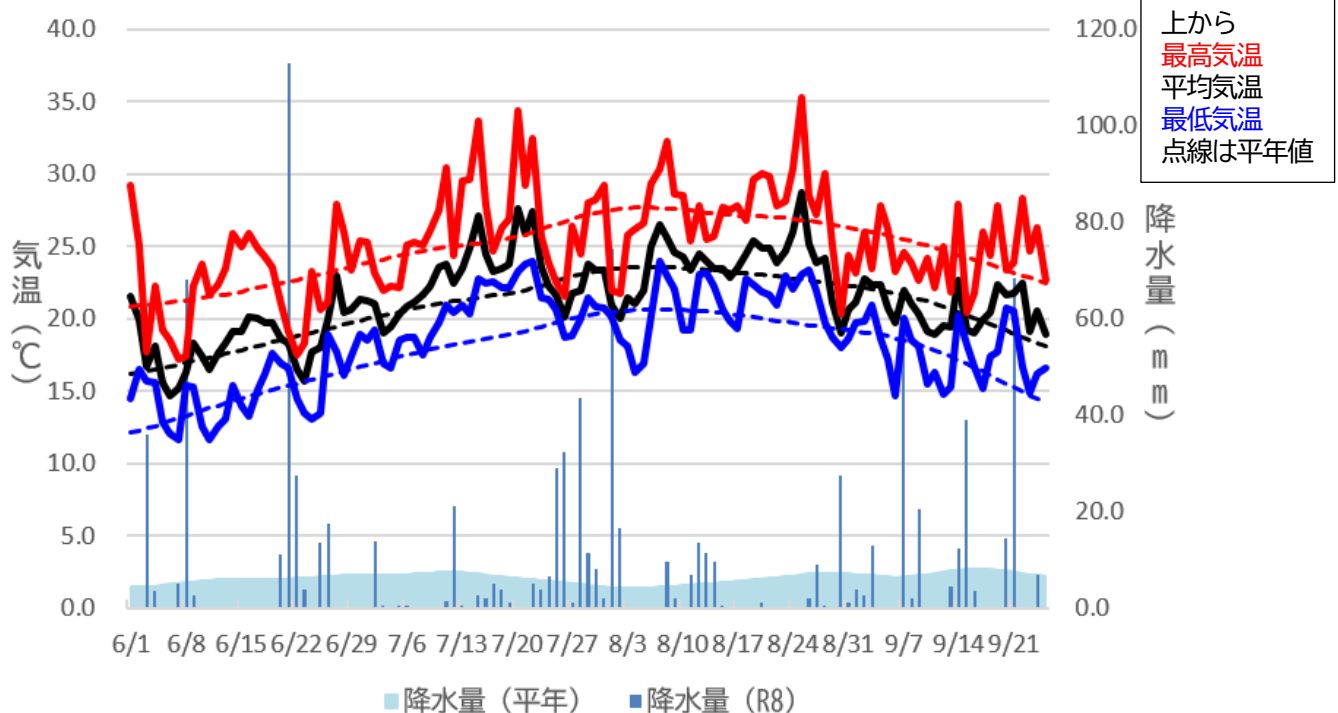


図1 気温・降水量の推移（大船渡アメダス観測点）

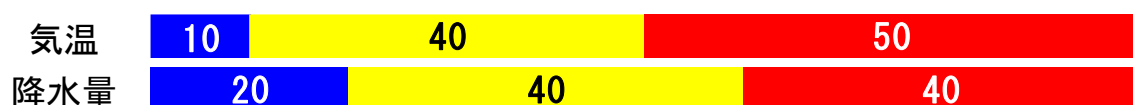


図2 東北地方3か月予報（仙台管区气象台、2026年9月18日発表）

1 果実肥大

9月21日時点で「ジョナゴールド」は平年比98%と概ね平年並で、「ふじ」は平年比112%と平年より進んでいます（表1）。

表1 定点観測圃場（陸前高田市米崎）におけるりんごの満開期と肥大状況

品種	満開期					果実肥大（mm）							
						9月11日				9月21日			
	R8	平年	差	前年	差	R8	平年	前年	平年比（%）	R8	平年	前年	平年比（%）
ジョナゴールド	4/26	5/3	-7	4/28	-2	86.0	86.6	85.4	99	87.4	89.2	88.2	98
ふじ	4/29	5/7	-8	4/30	-1	91.3	80.5	81.8	113	93.3	83.3	84.2	112

2 収穫期の目安（中生種～晩生種）

収穫期が近づくと、果実品質が大きく変化します。満開日からの日数、着色、地色、糖度、硬度、デンプン指数、食味などから総合的に判断して収穫時期を決定します（表2、図3）。

表2 収穫の目安（中生種～晩生種）

品種	R8 満開日	販売時期	満開日 起算	糖度 (Brix%)	硬度 (lbs)	デンプン 指数	カラーチャート 指数
ジョナ ゴールド	4/26 頃	—	145～155 日	13 以上	13 以上	2～3	2～3 （「ふじ」用）
王林	—	—	160～170 日	14 以上	14 以上	—	—
シナノ ゴールド	5/2 頃	即売用	170 日以上	15 以上	15 程度	1 以下	陰光面6以上 （きおう用）
		越年用	150～160 日	—	—	1 以上	—
ふじ	4/29 頃	2～4 月末	165～175 日	14 以上	14 以上	1～2	4～5 （「ふじ」用）
		即売～3 月末	175～180 日				
		即売～年内	180～185 日				

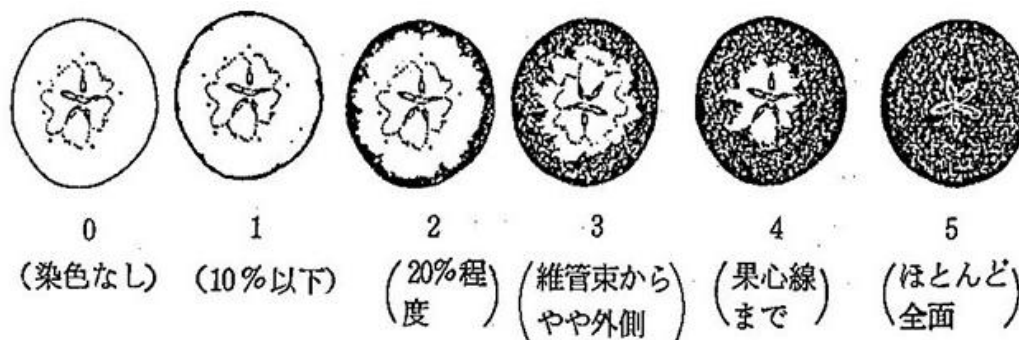


図3 ヨードでんぷん反応の指数（青森県りんご生産指導要項より抜粋）

3 「ジョナゴールド」の成熟状況と収穫期

糖度は概ね平年並で硬度が平年より低く、デンプン指数は平年より低いので、成熟は概ね平年並からやや進んでいると考えられます（表3、図4）。また、満開後日数から数えた収穫目安は9月中旬からですが、糖度とデンプン指数によっては 10月上旬に収穫期を迎えることも考えられます。

東北地方の1か月予報では9月下旬から10月上旬にかけて気温が平年より高いため、着色はあまり進まず、果実の熟度は果肉先行の傾向です（表4）。

表3 定点観測圃場（陸前高田市米崎）における「ジョナゴールド」の果実品質の変化

調査日	年次	果実重 (g)	硬度 (l b s)	糖度 (B r i x %)	デンプン 指数	地色 (カラーチャート)
9/11	R 8	224	19.1	11.3	4.3	1.0
	平年	264.2	18.8	11.1	4.0	—
	前年	240	18.1	11.3	4.2	1.0
9/21	R 8	259.7	17.6	12.3	2.9	1.3
	平年	301.4	18.5	12.0	3.6	—
	前年	287	16.4	12.5	3.3	1.0
10/1	R 8	—	—	—	—	—
	平年	327.5	16.7	13.0	2.9	—
	前年	338	15.1	13.0	2.4	2.0
収穫期の目安		—	13以上	13以上	2～3	2～3

※平年値はH19～R7年の平均（果重のみH23～R7の平均）

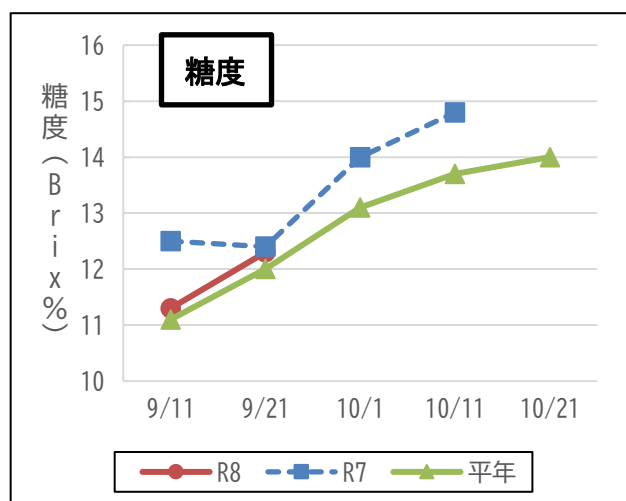
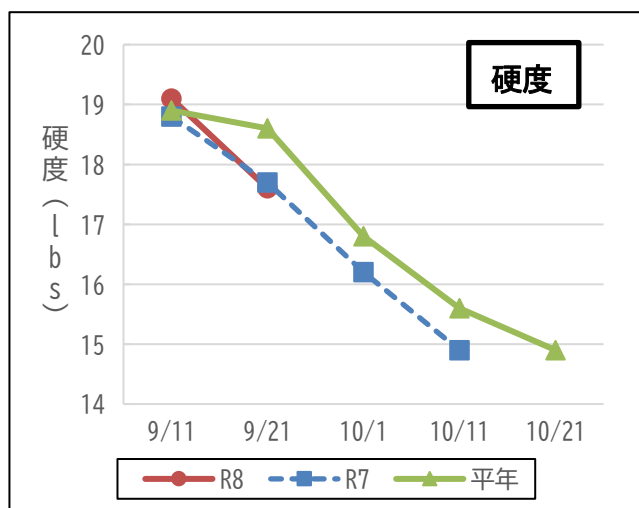
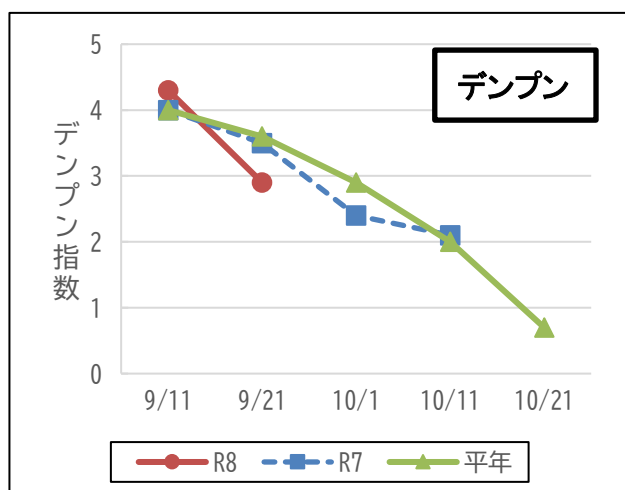


図4 「ジョナゴールド」の果実品質

(図4 続き)



9月下旬から10月初旬の気温は、平年より高い予報なので、十分な着色が期待できない可能性があります。

表4 東北地方1か月予報（仙台湾気象台、2026年9月24日発表）

	9/26～10/2	10/3～10/9	10/10～10/23
気温	平年より高い	平年並	平年より高い
降水量	平年より多い見込み		
日照時間	平年より多い見込み		

4 収穫上の留意点

夏期の高温の影響で、平年に比べ収穫期が早まる可能性があります。着色を待ちすぎず、内部品質に注意し、適期収穫を心がけましょう！

収穫前に、使用した農薬（殺菌剤、殺虫剤、除草剤、落果防止剤等）の収穫前日数を必ず確認しましょう。

◎ジョナゴールド ～収穫できる果実からすぐりもぎ！～

- ・着色が不揃いのため、収穫できる果実からすぐりもぎします。10月上旬頃から順次収穫可能となると予想されます。
- ・玉回しはすぐりもぎの時にも行うなど、回数をできるだけ多くすることが重要です。
- ・収穫が遅れると果肉の軟化、果皮の油上がりが発生します。着色を待って過度に収穫を遅らせないようにしましょう。

◎王林 ～遅採りにならないよう適期収穫！～

- ・黄色がかってきた果実からすぐりもぎします。
- ・収穫が早すぎると貯蔵後にビターピットや貯蔵やけが発生しやすく、収穫が遅れると果肉の軟化が進み貯蔵性が悪くなるため、遅採りは避けます。

◎シナノゴールド ～年内販売は果面のワックス、食味（酸味）を確認！～

- ・年内販売の場合は、果面にワックスが感じられるようになり、酸味が落ち着いたら収穫を行います。年内販売用は、10月中旬頃に収穫期を迎えると予想されます。
- ・収穫が遅れると裂果の発生が助長される恐れがあります。裂果が出始めた場合は速やかに収穫をしてください。
- ・完熟した果実の長期貯蔵は内部褐変が生じる危険性が高まるため、越年販売する場合は、収穫が遅れないように注意してください。越年販売用は、10月上旬頃が収穫期と予想されます。
- ・越年販売の場合は、デンプンがやや残っている状態で収穫することで、収穫後約4か月の貯蔵が可能となります。

◎ふじ ～販売時期に合わせて収穫を行いましょう！～

- ・収穫時期が早すぎると貯蔵中にヤケが発生しやすく、収穫時期が遅すぎると内部褐変が発生しやすくなります。
- ・みつが著しく入った果実は早期販売には有利ですが、内部褐変が多くなるため長期貯蔵には不向きです。みつの少ない果実を貯蔵しましょう。

5 今後の管理

(1) 「ふじ」の着色管理

「ふじ」の着色管理適期です。気温が低すぎると着色が進まないため、作業が遅れないよう計画的に実施しましょう（表5、図5）。

なお、過度の葉摘みは花芽率が低くなり、みつ入りも低下します。葉摘みは最小限とし、玉回しを中心に着色管理を行いましょう。

表5 「ふじ」の葉摘み時期の目安

葉摘み開始 時期の目安	葉摘み時期
収穫予定の 30～40 日前	1回目 9月下旬頃～ 2回目 10月中旬頃～

玉回しの際、つるの短い品種は
キズを付けないように注意

果そう葉を中心に日陰になっ
ている部分を葉摘みする

副梢葉・新梢葉は
できるだけとらない

図5 葉摘みのポイント

◎葉摘み

- ・葉摘みは2回に分けて行います。

1回目:陽光面が着色し始めたら、果実に直接触れている葉を摘む程度に軽めに行います。

2回目:半分程度まで着色したら、果実に日陰を作っている葉を摘みます。

※ 褐斑病による落葉が多く見られる場合は、葉摘み作業を控えましょう。

◎玉回し

- ・葉摘みと同時に収穫まで2～3回行います。
- ・陽光面の着色が進んでから、葉や枝カゲをつくらないように15～20度の角度に慎重に回します。

(2) 礼肥の施用

- ・樹の衰弱が見られる場合に実施します。
- ・施肥量は成木で多くても10a当たり窒素成分5kgを目安としてください。
- ・品種によって施肥時期が異なるため、表6を参考に施肥を行いましょう。

表6 品種別礼肥の施用時期

品種	礼肥の施用時期	施用量(成木)	種類
早生種	9月下旬～落葉前	年間施用量の 1/3～1/2程度 (10a当たり窒素成分5kg)	速効性肥料 (硝安や尿素等)
中生種	9月下旬～落葉前		
晩生種	10月中旬以降		

晩生種では、施肥時期が早すぎると果実の着色不良などを招く可能性があり、逆に遅すぎると養分吸収がわずかとなるため、施肥時期に注意しましょう。

(3) 紫紋羽病対策

- ・紫紋羽病に罹病すると根が腐敗し、地上部では葉の小型化や着果量の減少等が見られます。症状が進むと樹勢が衰弱し枯死することがあります。
- ・樹勢を適正に維持することで、発病を抑制できます。
- ・秋期以降、弱っている樹の地際部を観察すると、フェルト状の菌糸膜で樹皮が覆われている様子が見られることがあります。



図6 紫紋羽病による地際部の菌糸膜
(令和4年10月20日撮影)

チェックしましょう！

◎発生がわかったら～10月に実施できる対策～

- ・過湿な園地等で発生が助長されるため、土壌改良や排水路の設置等を検討します。
- ・1 樹あたり尿素 130 g を 5ℓ の水に溶き、幹から半径 60cm の地表面にかん注すると、樹勢回復に効果があります（来年5月にも実施します）。

表7 尿素の処理時期

品種	処理時期
早生種	10月上旬頃
中生種	10月上旬頃
晩生種	10月中下旬頃

晩生種では、処理が早すぎると果実の着色不良などを招く可能性があるため、10月中下旬に実施しましょう。

（4）令和9年の病害（褐斑病・斑点落葉病）対策

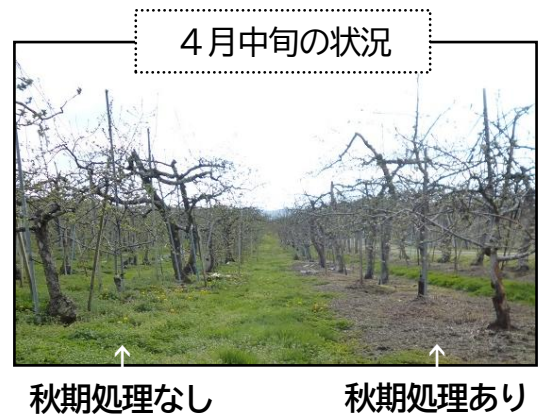
- ・枝葉が過繁茂になると散布ムラができ、多発要因となります。せん定の際は、薬剤の通りが良い樹形を意識してください。
- ・今年発生した褐斑病や斑点落葉病の被害落葉は、翌年の伝染源になります。発生が多かった園地では、りんごの発芽前までに**落葉処理**を徹底しましょう。

- ・落葉を集めて燃やす。
 - ・園地外に持ち出す。
 - ・園地に溝を掘り（20～30 cm程度）、そこに落葉を入れて土を被せて埋める。
- ※上記が難しい場合は、**草刈り機やロータリー耕等により葉を粉碎して土中にすき込む**簡易な方法でも多少の防除効果が期待できます。

田植え作業等で春先が多忙な方は、処理することでその時期の作業を減らすことができます。

（5）除草剤の秋期処理

- ・収穫終了後～落葉前（12月上旬頃）に除草剤を処理することで、翌年の6月上旬頃まで雑草を抑えることができます。
- ・処理が遅れると落葉によって散布ムラが生じやすいので注意してください。
- ・収穫後の散布となる秋期処理は、翌年の農薬使用回数にカウントされるので注意してください。



- ◆スギナ・ギシギシ・タンポポなどの強雑草（多年生雑草）→ 吸収移行型の除草剤を選択。
- ◆ハコベやメヒシバなどの弱雑草（一年生雑草）→ 接触型の除草剤を使用するか
吸収移行型で少量散布する。

（６）野そ対策

- ・冬～早春にかけて被害が増加し、特に若木やＪＭ台木は野その食害を受けやすいです。
- ・草生栽培や敷草を行っている園地は野そが巣を作りやすいので、積雪前に幹の周囲を清耕にし、巣を作るのを防ぎます。
- ・落果して散らばったままの果実は野そを呼び寄せる餌になるため、拾い集めて処分し、各種忌避剤、殺そ剤による対策も合わせて実施してください。
- ・野その繁殖期は春と秋が主なので、晩秋と早春の２回駆除を行うことにより効果的に密度を減らすことができます。野そは繁殖力が旺盛で活動範囲もかなり広いので、広範囲にわたって一斉に実施すると効果が高いです。

６ 農作業安全

【秋の農作業安全月間（9/15～11/15）】

スローガン「これくらい…」少しの油断が事故のもと 初心忘れず安全作業」

⇒ 収穫作業時は脚立の使用に十分注意しましょう！

★ポイント★

- ① 滑らない、安全な靴を履く
- ② 脚立を設置する際は、安定した場所で、脚立がなるべく傾かないように置く
- ③ 脚立を斜面に設置する際は、斜面の高いほうに脚立の一本脚が来るように置く
- ④ 脚立の天板に乗らない

クマの被害に遭わないよう注意しましょう！

・エサになる物は片付ける、山等で遭わないために音を鳴らす、遭遇してしまったら背を向けず静かに後退する、など。

※詳細は岩手県HP：くらし・環境 > 自然 > 野生動物 > ツキノワグマ

【連絡先】大船渡農業改良普及センター（27-9918）